

## 留学生の日本語への期待度

### ---全国中学生の意識調査---

東京外国語大学 井上 史雄

#### 1. 調査概要

中学校経由で全国の二世世代のデータを集める調査が、このほど完了した。このうち、ことばの使用意識に関して、留学生が使うことばとして適切かどうかという質問も入れた。以下ではその項目を扱う。

この調査では、カセットテープを中学校に送って、教室で再生しながら調査していただくという手法をとった。音声(の認知)について全国から貴重な資料が得られた。ほかに語彙や文法の項目も入れた。平成5(1993)年度から4年かかり、1996年末に調査予定を達成できた。各都道府県の県庁所在地と町村(郡)部から1校ずつに依頼することにした。一部の県からは、2校以上の協力が得られたので、計102校からのデータが入手できた。これまでにいくつかの項目は途中段階で随時発表した(末尾に示す)。

この稿で扱う意識項目は、6問である。以下に各図ごとに質問文を掲げ、結果を概説する。

#### 2. 調査結果

最初の3問は、いわゆる「尻上がり」イントネーションについてのもので、「ソレデェ」「アタシガア」などの典型的発話をテープで聞かせるの反応を記入する項目である。

図1. 81. (このイントネーションを)

友達と話すときに使ったり聞いたりすることはありますか。

- 1.自分で使う
- 2.クラスに使う人がいる
- 3.クラスにはいないが、この地方の若い人が使うのを聞いたことがある
- 4.テレビやラジオできくだけ
- 5.わからない

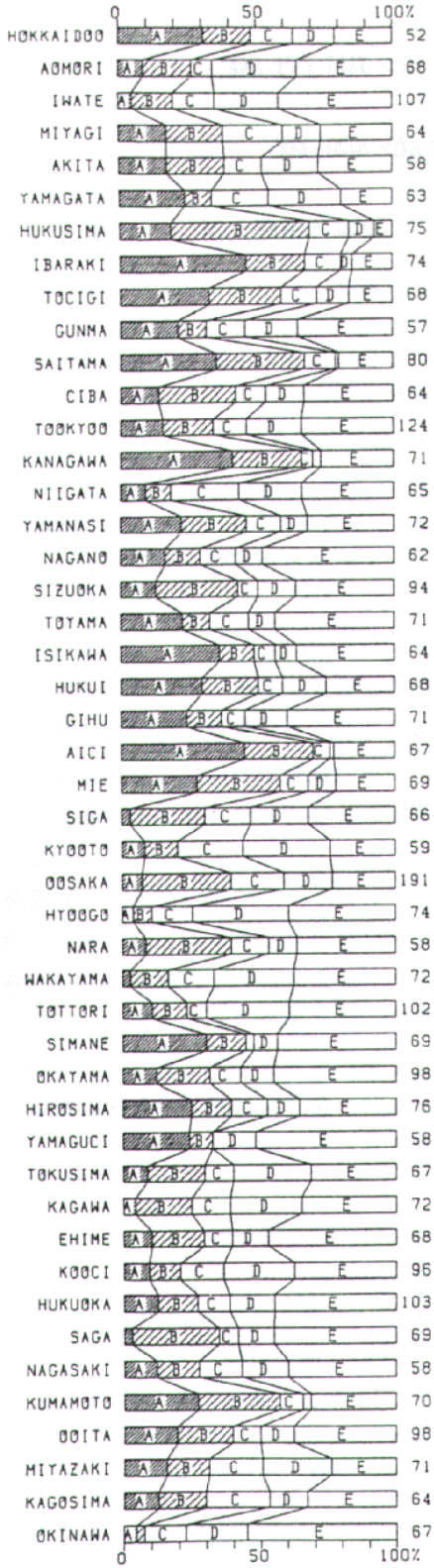
従来の研究によると、このイントネーションを自分で使うのに意識していない場合もある。この種の調査法の信頼度を検証すべきで、現に全体として「わからない」が多い。ただ「自分で使う」「クラスに使う人がいる」もかなり多い。しかも地域差があり、首都圏や東海地方に目立つ。ちゃんと聞き取って意識化できた生徒たちがいたのだろう。首都圏から都市部への伝播の可能性がある。「ここで聞く」「テレビやラジオできくだけ」は、そう多くない。身近な範囲での言語経験が反映されるようである。

図2. 82. 日本語を習っている留学生が使ったらどんな感じがしますか。

- 1.使ってもかまわない
- 2.若い女性なら使ってよい
- 3.ふさわしくない
- 4.わからない

この項目では、このイントネーションを「留学生が使ってもかまわない」とする中学生が多い。次に「ふさわしくない」が来る。「若い女性なら使ってよい」は少ない。意見が半分に分かれるわけである。以下の

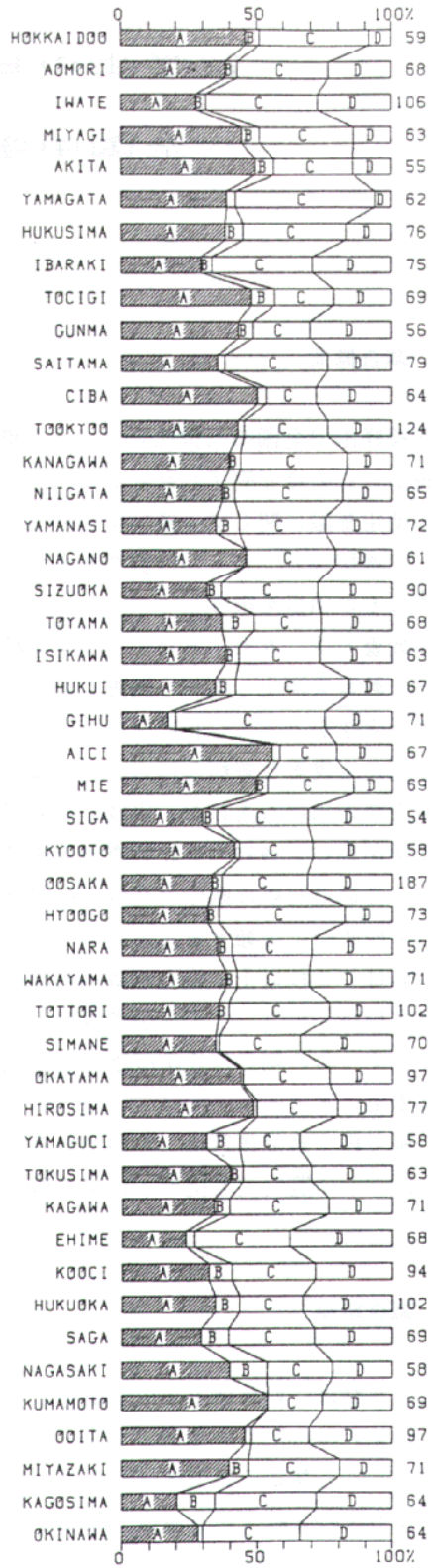
INTONABI.KEN-CHG



☒ 1

A = JIBUN DE TSUKAU  
 B = KURASU NI IRU  
 C = KOKO DE KIKU  
 D = TV RADIO DE KIKU  
 E = WAKARANAI

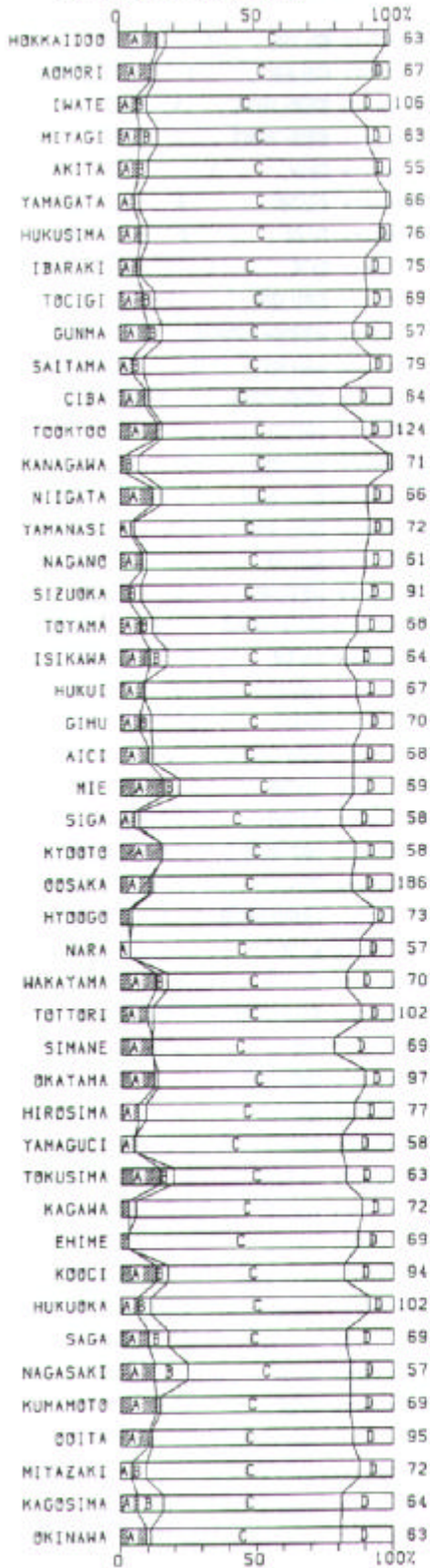
INTRYG82.KEI-CHG



☒ 2

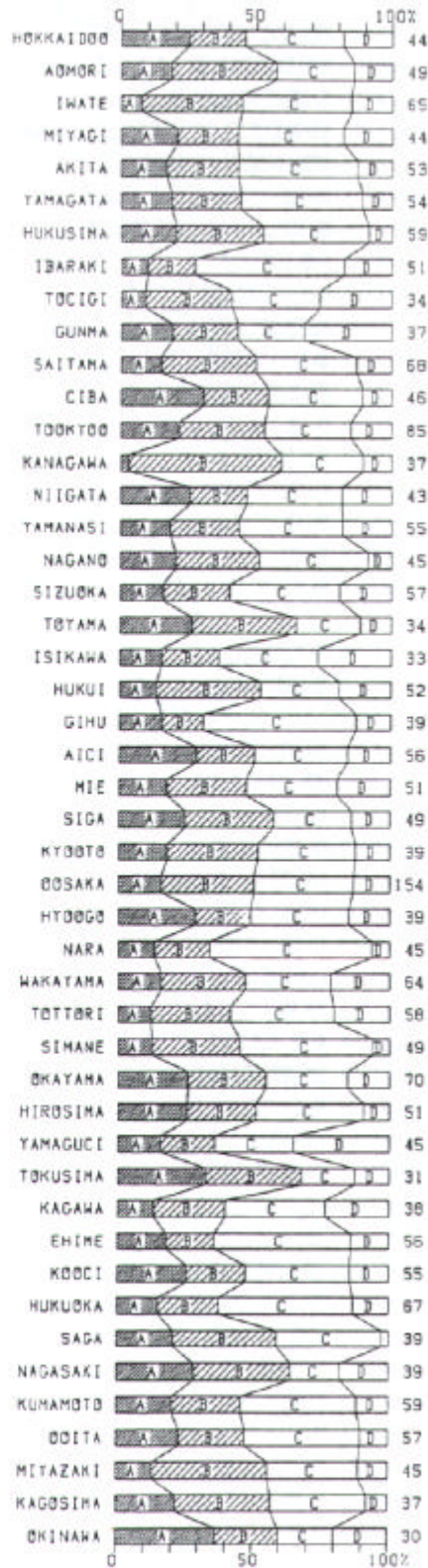
A = RYUGAKUSEI KAMAWANAI  
 B = RYUGAKUSEI WAKAI JOSEI OK  
 C = RYUGAKUSEI FUSAWASHIKUNAI  
 D = RYUGAKUSEI WAKARANAI

INTNHHK83.KEN-CHG

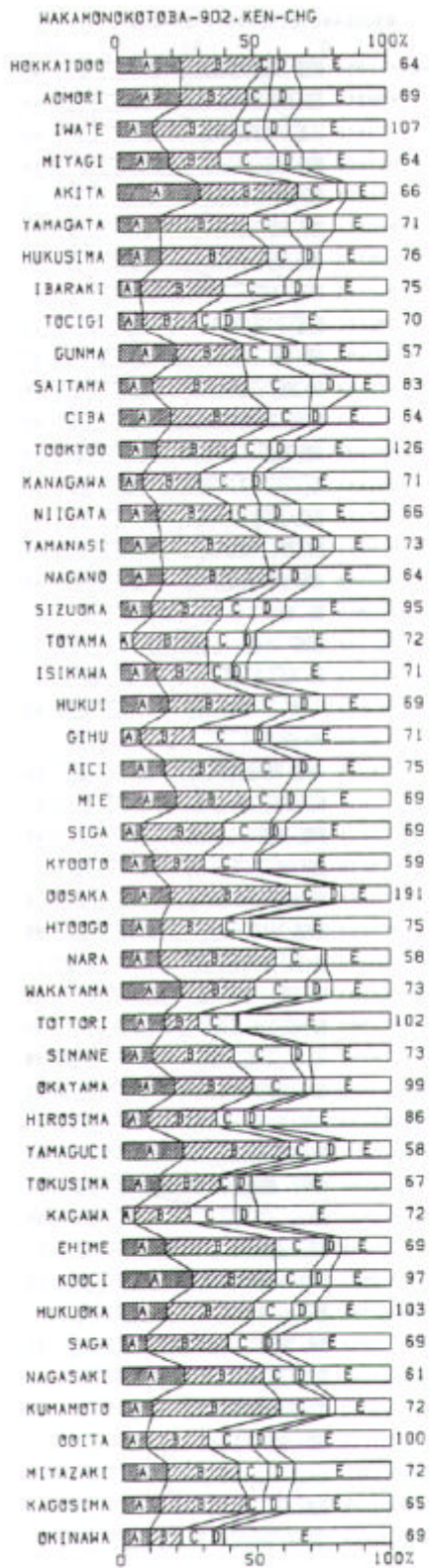


3 A = NHK ANNOUNCER KAMAWANA  
 B = NHK ANNOUNCER WAKAI JOSEI OK  
 C = NHK ANNOUNCER FUSAWASHIKUNAI  
 D = NHK ANNOUNCER WAKARANAI

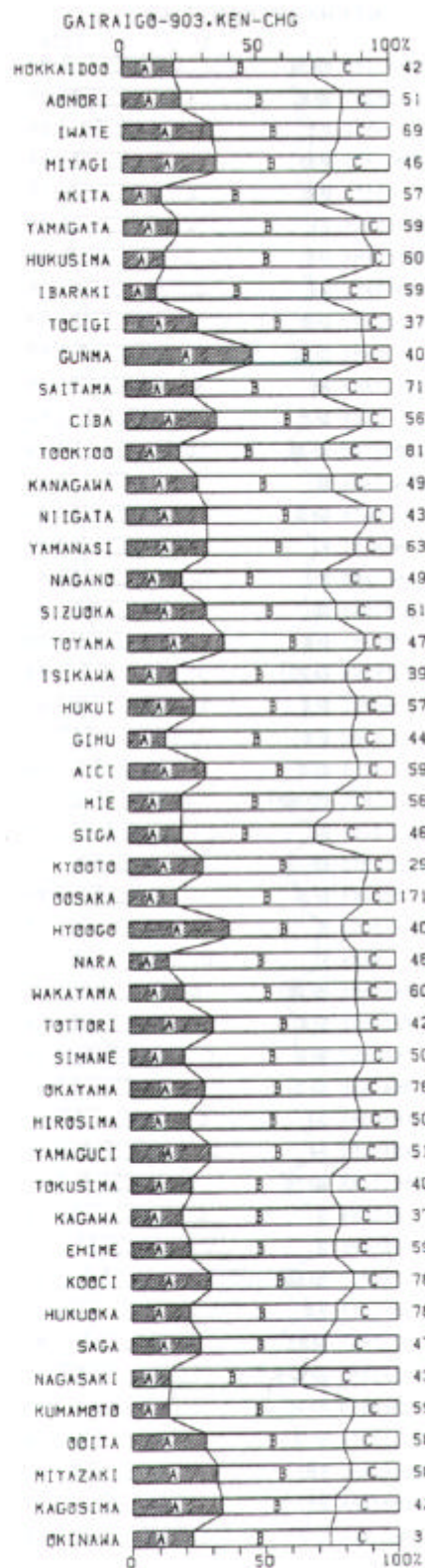
RYUUGAKUSE IHDN901.KEN-CHG



4 A = TSUKAU BESI  
 B = HITSUYOO TEIDO  
 C = RIKAI  
 D = HUTOO



5 A = WAKAI OK  
 B = NIMONJIN TO OK  
 C = RIKAI NOMI  
 D = DAME HYOJ NOMI  
 E = HUKAITOO



6 A = TSUJIRU HAZU  
 B = ANTEISHITA GO OK  
 C = TSUKAWANAI HODGA TOI

個々の単語や文法についての反応に比べると、この新現象については、中学生の許容度が高い。実際によく使う留学生がいることと、関連があるだろう。

図3 . 83. NHKのアナウンサーが使ったらどんな感じがしますか。

- 1.使ってもかまわない
- 2.若い女性なら使ってよい
- 3.ふさわしくない
- 4.わからない

図2にひきかえ、NHKのアナウンサーを対象を変えると、「ふさわしくない」が圧倒的になる。中学生は世論調査による国民全体と同様の意識傾向を示し、アナウンサーに対し、正しい、美しい日本語の使い手を期待するようである。

図4以下は、調査票の各項目分類の末尾にまとめるに置かれた項目である。

図4 . 901. 日本語を勉強している留学生が、上のような各地の方言を学ぶことについて、どう思いますか。

- 1.標準語と同じ程度に、地元の方言を使える方がいい
- 2.地元の人と話すときに必要な程度に、方言を使える方がいい
- 3.使う必要はないが、地元の人と話すときに必要な程度に、意味は理解すべきだ
- 4.外国人は正しい標準語が分かれば十分で、方言は理解できなくてもよい

図4では、留学生と方言の関係を扱っている。近年各地で留学生への生活語・地域語教育の必要性調査や、実施の試みがある。中学生の意見は割れている。多いのは「使う必要はないが、地元の人と話すときに必要な程度に、意味は理解すべきだ」である。次が「地元の人と話すときに必要な程度に、方言を使える方がいい」で、「標準語と同じ程度に、地元の方言を使える方がいい」という過激な意見は多くない。「分かればよい」とするのは、一般市民の意見と同様

の傾向である。近畿や東北と首都圏で意見が違うことが期待されるが、この図では意味のある地域差は見いだしにくい。

図5 . 902. 日本語を勉強している留学生が、上のような若者特有のことばを使うことについて、

- 1.若い留学生ならいつも使っている
- 2.日本人の友達と話すときなら使っている
- 3.使うのはよくないが、意味は理解すべきだ
- 4.外国人は正しい標準語だけを使うべきで、若者ことばは知る必要がない

図5の若者ことばについては、「無回答」が多い。回答者の中では、「2.日本人の友達と話すときなら使っている」が多い。ほかの選択肢はそう多くない。調査票の具体的項目は、チャリンコ、オモロイ、マック、チョーなどの例を尋ねている。中学生は留学生に、日本人と同じような言語(使い分け)能力を求めてはいないようである。

図6 . 903. 日本語を勉強している留学生と話すときに、日本人が上のような外来語を使うことについて、どう思いますか。

- 1.日本人が外来語を使う方が、外国人には通じるはずだ
- 2.日本語の中に入り込んで安定した外来語なら使っている
- 3.外来語は外国人にはかえって分かりにくいので、日本語(和語漢語)を使う方がいい

外来語については、「日本語の中に入り込んで安定した外来語なら使っている」というおだやかな意見が圧倒的である。「日本人が外来語を使う方が、外国人には通じるはずだ」という意見はそう支持が厚くない。「外来語は外国人にはかえって分かりにくいので、日本語(和語漢語)を使う方がいい」というのは、日本語教育経験者の意見だが、支持は少ない。フォリナートー

クとして、アジア・漢字圏の人にさえも英語を使いたがる日本人が観察されているが、その背景が、以上の意識調査からも読み取れた。

なお県ごとの差、日本全体の地域差にあたるものは、以上の図からは読みとりにくい。いずれ、他の項目と関連づけて考察されるべきだろう。

### 3. 結論

まだ言語経験が不十分な中学生への調査であるが、従来の関連調査と照合して矛盾しない結果が得られた。最近方言意識についての全国的調査も行われており、ここでの項目についても地域差が出ることを期待したが、いわゆる「尻上がり」イントネーションを別にすれば、意味のある地域差が読み取れなかった。県庁所在地と町村部の差が出るか、生徒の言語行動との関連があるかなど、今後の分析の課題となる。

#### 既発表論文・文献

(井上史雄、中学校調査関係)

1995.1 「標準語形と共通語形の中学生での全国分布」(井上史雄編『日本語教育における社会言語学的基盤』科学研究費報告書) pp.75-88.

1995.2a 「方言とコミュニケーション」

教育と情報 443. pp.14-19.

1995.2b 「日本語の国際化と沖縄の言語状況」(『国際社会における日本語についての総合的研究 第1回研究報告会予稿集』新プロ「日本語」総括班)pp.9-16.

1995.5 「言語地理学から社会心理言語学へ」日本方言研究会発表原稿集 60 pp.41-48.

1995.7 「(パソコン利用の現状と課題)方言」日本語学 14-8 pp.63-73.

1995.8 「日本語教育における社会言語学的基盤に関する総合的研究」平成7年度日本語教育助成研究発表会予稿集 pp.23-25.

1996.9 「新しい時代と新しいことば」国文学 解釈と教材の研究 41-11 (特集『日本語の語彙と言語文化』) pp.44-49.

1996.12 「変化の時代の日本語 語彙の地域差」放送研究と調査 46-12 (NHK)pp.7-10.

1997.2 『社会方言学資料図集 ----全国中学校言語使用調査(1994-1996)----』(東京外国語大学)

1997.3 「ネオ方言と新方言」『西日本におけるネオ方言の実態に関する調査研究』科研費報告書